

特 255

402

昭和十八年四月  
料第二九號

スマトラ面積人口表

財団法人 南洋經濟研究所

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



特 255  
402

はし が き

南方諸地方の面積、人口等の統計表の如きは甚簡單なるに似たれども、未だ一冊に整理綜合せられたるものなし。仍て本研究所に於ては此の點に志し地理學專攻の篠田九萬太氏に委囑して先づ南方全般より逐次各地方詳細に及んで面積及人口統計を整理し、取敢へず南洋資料として刊行し完成の上綜合して一冊の統計書を編纂せんとす。

スマトラの面積及人口に關して詳なることは本資料を以て初めて明となれりと信ず。尙本資料と共に南洋資料第二三〇號を讀まれたし。

昭和十八年四月二日

財團法人 南洋經濟研究所

發行所寄贈本

スマトラ面積人口表 目次

一、スマトラ	.....	一
二、スマトラ島	.....	一
三、アチエー州	Ajeh .....	二
四、スマトラ東海岸州	Sumatra, East Coast .....	二
五、タパヌリ州	Tapanoeli .....	三
六、スマトラ西海岸	Sumatra, West Coast .....	三
七、リオウ州	Riouw .....	四
八、ヂヤンビ州	Djambi .....	四
九、ベンクレーン州	Benkoelen .....	四
〇、パレンバン州	Palembang .....	五
一、ランボン州	Lampongs .....	五
二、パンカ島(州)	Bangka .....	六
三、ピリトン島(州)	Billiton .....	六
四、スマトラ北西方諸島	.....	六



目次

目次

一五、ロンドン島 Rondo ..... 9  
 一六、ブリュウ島 Brewèh ..... 9  
 一七、ドユウダブ島 Deudabe (Dadab, Nasi Besar) ..... 9  
 一八、ブンタ島 Bunta ..... 9  
 一九、バテ、ー島 Bate' ..... 9  
 二〇、ウエ島 wé ..... 9  
 二一、スマトラ西方諸島 ..... 9  
 二二、シメワル島 Simalur ..... 9  
 二三、バビ島 Babi ..... 9  
 二四、ラシア島 Lasia ..... 9  
 二五、バンヤク諸島 ..... 9  
 二六、ウジユンバツ島 Ujung Batu ..... 9  
 二七、ツアンク島 Tuanku ..... 10  
 二八、バンカル島 Bangkaru ..... 10  
 二九、ニアス島 Nas ..... 10  
 三〇、バツ諸島 ..... 10  
 三一、シムク島 Simuk ..... 10

三二、シガタ島 Sigata ..... 10  
 三三、テロー島 Tello ..... 11  
 三四、タナーマサ島 Tanah Masa ..... 11  
 三五、タナーバラ島 Tanah Bala ..... 11  
 三六、ピニ島 Pini ..... 11  
 三七、メンタウエイ諸島 ..... 11  
 三八、シベルト島 Siberut ..... 11  
 三九、シボラ島 Sipora ..... 11  
 四〇、北バカイ島 North Pagi ..... 11  
 四一、南バカイ島 South Pagi ..... 11  
 四二、エンガノ島 Engano ..... 11  
 四三、マラツカ海峡諸島 ..... 11  
 四四、メダン島 Medang ..... 11  
 四五、ルパツ島 Rupert ..... 11  
 四六、ベンカリス島 Bengkalis ..... 11  
 四七、パダン島 Padang ..... 11  
 四八、メルバウ島 Merbau ..... 11

目次

四九、ランサン島 Rangsang ..... 10  
 五〇、テビンテンギ島 Tebing Tinggi ..... 10  
 五一、メン、ドル島 Mendol ..... 10  
 五二、カアリムン及クンドル諸島 ..... 10  
 五三、小カリムン島 Klein Karimun ..... 10  
 五四、大カリムン島 Groot Karimun ..... 10  
 五五、パリイト島 Parit ..... 10  
 五六、トウラン島 Tulang ..... 10  
 五七、ルムウト島 Lumut ..... 10  
 五八、パパン島 Papan ..... 10  
 五九、ブルー島 Buru ..... 10  
 六〇、ベラアト島 Belat ..... 10  
 六一、クンドル島 Kundur ..... 10  
 六二、リオウ諸島 ..... 10  
 六三、ヒーラン島 Galang ..... 10  
 六四、カラス・ベサル島 Karas Besar ..... 10  
 六五、パンキル島 Pangkil ..... 10

六六、レンバン島 Rempang ..... 10  
 六七、バタム島 Batam ..... 10  
 六八、プラシオン島 Boelian ..... 10  
 六九、チヨンボル島 Tiombel ..... 10  
 七〇、スギ島 Soegi ..... 10  
 七一、ヅリアン島 Doerian ..... 10  
 七二、リオウ島 Riouw (Binlan) ..... 10  
 七三、リンガ諸島 ..... 10  
 七四、セパンカ島 Sebangk ..... 10  
 七五、リンガ島 Linga ..... 10  
 七六、シンケツプ島 Singkep ..... 10

参考文献及調査法

- 一、州別面積人口統計は左記に據る。
  - 1 INDISCH VERSLAG 1941
  - 2 寶庫スマトラの全貌
- 二、屬島の面積は海圖又は二百萬分の一南方圖の計測に據る。
- 三、屬島の人口は、水路誌の記載事項、小島に於ては海圖記載の部落數及 ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND の人口密度圖に依り推定せり。
- 四、其の他に使用せるもの。
  - 1 水路誌
  - 2 世界地理外南洋 I 河出書房
  - 3 ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND
  - 4 蘭領印度地理概説 東亞研究所
  - 5 スマトラ縦走横斷 臺灣大亞細亞協會

番號	地名	面積	年	人口	密度
一	スマトラ	四七三、六〇四 <sup>平方浬</sup>	一九〇五	四、三二〇、〇〇一 <sup>人</sup>	九・一 <sup>平方浬</sup>
			一九二〇	六、三〇四、五八七	一三・三
			一九三〇	八、二五四、八四三	一七・四

スマトラは北緯五度三九分より南緯五度五七分に跨り、大スンダ諸島中最も西に在る。主島スマトラ島はボルネオ島の七割、ジャワ島の四倍、我が本州の二倍に達し、其の延長一七〇〇浬、最廣部は四〇〇浬を有する。スマトラ島と其の屬島を以てスマトラと呼稱する。屬島にはメンタウエー諸島を含む西方諸島、スマトラ北西方諸島、マラツカ海峡諸島、カアリムン及クンドル諸島、リオウ諸島、リンガ諸島、パンカ島、ピリトン島等を有する。

番號	地名	面積	年	人口	密度
二	スマトラ島	四五四、九一九	一九〇五	四、一四二、三六七	九・一 <sup>平方浬</sup>
			一九二〇	六、〇八一、八八六	一三・三 <sup>平方浬</sup>
			一九三〇	七、六六一、三九九	一六・七 <sup>平方浬</sup>

スマトラ島は、其の中央を赤道が横ぎり年中略ぼ我が東京の八月の平均気温を持續し、極めて多雨で就中西海岸地方は三月乃至十一月の西南季節風の爲三五〇〇浬内外に達する。西海岸に接して高峻な山嶺が縱走し、東海岸には廣い沖積平野を發達せしめて居る。

本島の人口密度は、高地は概して低地より稠密で、西海岸州のバタン高原は本島に於て最高位を占める。東海岸の沖積層低地は人口甚だ稀薄であるが、本島の東北部及東南部には洪積層の臺地もあり、植栽農業の進展に伴ひ人口が稠密となつて居る。本島の人口密度は我が樺太の眞岡支廳より稍小である。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

註一、註二はスマトラよりバンカ島、ピリトン島の人口を除く。  
註三は水路誌に據りスマトラ島のみ的人口である。

三 ア チ エ ー 州

一九〇五	五八二、一七五	一〇・五
一九二〇	七三六、三四八	一三・四
一九三〇	一、〇〇三、〇六二	一九・二

スマトラ島北部を占め北西方諸島及シメワルー島を含む。北西―南東の方向に脊梁山脈縦走し、東海岸西海岸の百米以下の低地は濕地と爲つて居る。併し東海岸地方は夏季乾燥し一五〇〇耗内外の霖雨地を爲し、加ふるに馬來半島に近き爲、スマトラ東海岸州と共に歐人農業進展し、人口稠密である。特に護謨は、東海岸州と共に東印度エヌテート産葉の七四・五%を占める。

本州の主要土着民アチエー人は六七萬を占め、往古アチエー王国を建設し、頑強にオランダ統治に對して妨害を加へた種族で、現在米作を主とする農業を爲し漁業も爲す。山地の半乾燥地には六〇〇〇人のガヨ族居住し、従順にして農業を營んで居る。

本島の人口密度は我が樺太眞岡支廳と同等である。

四 スマトラ東海岸州

一九〇五	五六八、四一七	六・一
一九二〇	一、一九七、五五四	二二・七
一九三〇	一、六九三、二〇〇	一八・二

マラッカ海峡を隔て、馬來半島と相對し、スマトラ東海岸斜面の北半を占める本島の最大州で、マラッカ海峡諸島を含む。

海岸平地の大部は百米以下の低濕地で殆ど無居住の状態であるが、メダン市近郊の北部海岸平野及トパー高原は西海岸州バタン高原と共にスマトラに於ける最人口稠密地域を爲し熱帯植栽農業地としての耕地が廣く開ける。本州の特産護謨、煙草、茶、纖維、椰子油の産額は本島第一である。本州の人口密度は我が樺太の眞岡支廳と同等であるがメダン市近郊に於ては、一〇〇人以上に達する。

五 タ バ ス リ 州

一九〇五	四一三、三〇一	一〇・八
一九二〇	八五五、七三九	二二・五
一九三〇	一、〇四二、五八三	二七・五

西海岸に位し、バンヤク諸島、ニアス島、ベツ諸島を含む。此の州の東半部はバタック高地を爲し諸火山が峰起し氣候も良好で人口密度高く珈琲、茶を産する。西海岸の沿海平地にはシボルガ港の製港があり、護謨、珈琲を輸出する。バタック族が人口の大部分を占め、可なり高度の文化を保有し、農業を營み、水稻、陸稻、玉蜀黍を栽培する。本州の人口密度は臺灣の臺東廳に匹敵する。

六 スマトラ西海岸州

一九〇五	一、三〇八、四七一	二五・七
一九二〇	一、五七八、八〇八	三一・五
一九三〇	一、九一〇、二九八	三八・二

スマトラ西海岸中部に位し、メンタウエイ諸島を含む。本州は所謂一〇〇〇米内外のバタン高原が廣面積を占め、海岸には狭少なる沿海平地があり、珈琲、コブラ、丁香の産が多い。人口の大部分を占めるメナンカガ族は古代強力な王国を形成し始ど全島に勢威を揮ひ馬來半島に植民して馬來文化の最高水準に達した優秀種族で、主として高原地域に居住する。本州の

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

人口密度はスマトラ最高を占め、我が北海道の人口密度に匹敵し、パタン高原に於ては一二五人以上となる。

七 リ オ 州

一九〇五	一一二、二一六	三・四
一九二〇	一一三、一〇四	六・九
一九三一	一一八、二二五	九・三

スマトラ東海岸州の南部に位し、インテラキリ河流域の陸地部と、カアリムン及クンドル諸島、リオウ諸島、リンガ諸島等の島嶼部を以て構成する。州の大部は一〇〇米以下の低湿地で原始林に被はれて居る。従つて人口甚だ稀薄で無居住地少からず、住民はゲエツダ的要素を持つ未開馬來人で定住せず、タビオカ、山芋、タロ芋の耕作を爲して居る。僅少な護謨、コブラを産する。人口密度は我が大泊支廳に匹敵するが島嶼部は人口密度高く一〇人以上である。

八 チ ヤ ン ビ 州

四四、四五二	一九〇五	一〇〇、〇〇〇(推定)	二・二
	一九二〇	一六四、六一八	三・七
	一九三〇	二四五、二七二	五・五

スマトラ東部の一州で、チャンビ河流域を占め、殆ど二〇〇米以下の低湿地である。西部州境の高峻な山地よりチャンビ河は東流し平地(臺地)帯、湿地帯を横ぎつて海に注いで居る。ゲエツダ的要素を持つ未開馬來人の非定住生活者が多く、人口密度は粗で開拓進まず、コブラ、護謨の産が有るに過ぎない。本州の人口密度は我が樺太の泊居支廳と同等である。

九 ベ ン ク ト レ ン 州

二五、八八六	一九〇五	二〇四、二六九	七・九
	一九二〇	二五七、一四〇	一〇・二

スマトラ島西南部に位する海岸に沿ふ帶狀の一州である。山脈が直ちに海に迫つて平地は少く、レジャナゲ族、南スマトラ人、ランボン人が居住し、珈琲、コブラ、茶、護謨が栽培される。本州の人口密度は我が樺太の本斗支廳に匹敵する。

一〇 バ レ ン バ ン 州

八五、九一八	一九〇五	六九七、〇〇〇(推定)	八・二
	一九二〇	八二七、九八五	八・五
	一九三〇	一、〇九八、七二五	一一・九

スマトラ島東南部に位する一州である。本州は西部ランボン州との境域を除けば、大部分一〇〇米以下の低地であるが、海岸地域の沖積層低湿地以外は殆ど火山性の臺地で、スマトラ北部に次いで人口居住度高く、スマトラ最大の都市バレンバン市も在る。ランボン族が護謨、珈琲、茶の栽培もなして居る。本州の人口密度は我が樺太の本斗支廳に匹敵する。

一一 ラ ン ボ ン 州

二八、二六八	一九〇五	一五六、五一八	五・二
	一九二〇	一一三、九〇三	一一・八
	一九三〇	一三六、五六三	一二・八

スマトラ島南端部に位する。此の州の西半部は山地、東半部は平地である。平地は海岸の湿地帯を除いては大部火山性の臺地である。ジャワと氣候條件は同じで夏期乾燥し、湿地帯を除いては農耕に適し、ランボン族居住し、茶の産額が多い。本州の人口密度は我が樺太の本斗支廳に匹敵する。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

六

一二 バンカ島 (州)

一一、七八一

一九〇五

一一五、一八九

九・七

一九二〇

一五四、一一四

一三・一

一九三一

二〇五、三六三

一八・六

スマトラ島南東端に接する一大島嶼である。島は比較的不毛で小谿谷及沼澤地が多く、密林に被はれ、土地の起伏が著しいが、最高峯は一千米に達しない。原住民は稀少で林産物を常食とする山林種族と、主として海上に居住する漁夫族となつて居る。人口の大半は移住民で馬來人、支那人多く、錫の特産の外金、銀、銅、鉛の發掘に伴つて流入したものである。本州の人口密度は我が樺太の眞岡支廳に匹敵する。

一三 ビリトン島 (州)

四、八四九

一九一六

六一、四五四

一一・八

一九二〇

六八、五八二

一三・九

一九三一

七三、四二九

一八・二

スマトラ最東南端の離島である。島内は山嶽散在するが山脈を成すものはなく、殘餘の平地は平坦で樹木繁茂する。在來の住民は専ら海上の漁泊生活を營み、住民の大半は移住民で、支那人の鑛夫は三萬に達し、錫の採掘に従事する。本州の人口密度は我が樺太の眞岡支廳に匹敵する。

一四 スマトラ北西方諸島

二二〇

スマトラ北西方に位する六箇の火山島より成る。島の面積に比較すれば高峻な山嶽があり、海岸には珊瑚礁が發達し、處々に砂濱があつて好鎭地を爲し、住居もあるが、人口は何れの島嶼も稀薄である。本諸島の面積は我が伊豆大島の面積と略同等である。

一五 ロンドン島

一〇・四

ナシ

スマトラ北西方諸島に屬し、北緯六度四分東經九五度七分に位する。高さ一五三米の珊瑚礁にして島上には樹木繁茂する。

一六 ブリユウ島

五四

僅少ナリ

スマトラ北西方諸島に屬し、東經九五度一五度八分、北緯五度三十分一五度四十分の間に位する。島は中央に六八二米の山嶽屹立し、島岸は概して險阻であるが灣内並に南岸は殆ど砂濱である。島の南部は廣漠たる平野で村落散在し、丘麓には椰子及砂糖の栽培地あり、北西部には胡椒を栽培する小農園が若干ある。

註、水路誌に據る。

一七 ドユウダブ島

二一九

可ナリアリ

可ナリ稠密

スマトラ北西方諸島に屬し、スマトラ島北端に近く位する。島の中央部は低地で周圍に高さ二〇〇米乃至三〇〇米の火山が圍繞する。海岸は一般に砂濱で住民は胡椒の栽培に従事して居る。

註、水路誌に據る。

一八 ブンタ島

二二

一村落實リ

スマトラ北西方諸島に屬し、スマトラ島の北西端に接して位する。高さ二三七米の火山島で、島頂に達する迄「カスアリ」樹が繁茂して居る。島岸には大磊石を有する礁が在る。

註、水路誌に據る。

一九 パテ島

一

數戸ノ人家アリ

スマトラ面積人口表

七



スマトラ面積人口表

スマトラ北西方諸島に屬し、山嶽直ちに海に迫り就中北岸は絶壁をなし、島頂は一三〇米を示す。  
註、水路誌に據る。

二〇 ウ エ 島 一一七

スマトラ北西方諸島中北東方に位し、スマトラ北岸に於ける最大島で、山嶽に富み、樹木鬱蒼と繁茂す。島内の最高山は六五五米である。島の北部に人口七千人を算するサベン市がある。本島の面積は我が臺灣の澎湖島と略ぼ同等である。  
註、水路誌に據る。

小村落散在ス 人口稀薄ナリ

二二 スマトラ 西方諸島 一一、八〇九

スマトラ島海岸に併行して西方に並ぶ火山列島で、シメワルー島、ベビ島、ラシア島、パンヤク諸島、ニアス島、バツ諸島、メンタウエイ諸島を含み、其の總面積は約一七、〇〇〇平方軒に達し我が千島列島の面積の約一・二倍に該當し、人口はニアス島を除きては甚だ稀薄である。

二二 シメワルー 島 一、五〇〇

スマトラ西岸沖合の大島中最北に位し我が佐渡島の約二倍の面積を有する。島は其の附近に在る離島の大牛と同じく到處樹木繁茂し、地震海嘯等は頻々發生する。島内短艇を入れ得る河川を有せず若干の道路がある、運輸は殆ど總て舟艇(Canoes)に依つて居る。島内は人口稀薄、住民は總て未開の回教徒で、大多数は沿岸地及諸島嶼に住する。  
註一、水路誌に據る。註二、ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND に據る。

定住民ナシ 人口稀薄  
約一〇、〇〇〇推定 一〇—五  
註一 註二

二三 バ ビ 島 四〇

ナシ 註一

シメワルー島の南東方に位する。低平な島嶼で樹木密茂し島の周圍は急深である。  
約二〇〇(推定) 五一—二  
註二

註一、水路誌に據る。註二、ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND に據る。

二四 ラ シ ア 島 一一

ナシ 約五〇(推定) 五—二  
註一 註二

シメワルー島の南東方に位する。低平な島嶼で樹木密茂し、島の周圍は急深である。  
註一、水路誌に據る。註二、ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND に據る。

二五 パンヤク 諸島 一一八

一九三〇 約七〇〇(推定) 五一—二

本群島はシメワルー島とニアス島との略中間に連互して居る「ウジュンベツ」「ツアンク」「ベンカル」の三大島と屬島を包含し、其の面積は我が琉球に匹敵する。「ツアンク」「ベンカル」二島は樹木密茂して居るが、爾餘の島嶼は叢林及椰子林に蔽はるゝに過ぎない。此等島民は總て回教徒で殆ど椰子栽培業及漁業に従事し「マタリヤ」の流行が甚し。Achinese, Niaser, 馬來人及支那人が雜居して居る。  
註、ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND に據る。

二六 ウジュンベツ 島 八

一九三〇 約三〇〇(推定) 五一—二

パンヤク諸島の北西端に位する。叢林及椰子林を以て全島被はれて居る。  
註、ATLAS VAN TROPISCH NEDERLAND に據る。以下島嶼の推定人口、人口密度は此の形式に據る。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

一〇

二七 ツ アン ク 島

一五〇

一九三〇

約四〇〇(推定)

五一二

パンヤク諸島の中央に位する此の諸島中最大の島嶼で其の面積は伊豆八丈島の約二倍に達する。北側及西側は丘陵に富むが東側は低平でマングローブ樹が密生して居る。

二八 バ ン カ ル 島

六〇

一九三〇

約一五〇(推定)

五一二

パンヤク諸島の南西端に位する。此の島は丘陵に富み最高三〇三米に達する。島内は樹木が繁茂して居る。

二九 ニ ア ス 島

三、八〇〇

一九三〇

二〇〇、〇〇〇

五二・〇

スマトラ西海岸沖合の諸島中最大の島嶼で其の面積は我が關東州の面積より稍大きい。山丘に富み東方より之を望めば殆ど高低の差なき一連の山嶺をなして居る。海岸には樹木繁茂し、村落の大多数は丘頂に在りて良好な道路で連絡して居る。本島の南部中央部は人口稠密であるが、北部は稀薄である。

三〇 パ ツ 諸 島

一九三〇

約一五〇〇(推定)

二五二〇

ニアス島とシベルト島との中間に位し、ピニ島、タナーマサ島、タナーバラ島の三箇の大島及多数の小島より成り、其の總面積は我が佐渡島の面積に匹敵する。群島の人口は稀薄で殊に大なる島に於て著しい。

三一 シ ム ク 島

一一二

一九三〇

約一〇〇〇(推定)

二五二〇

パツ諸島の最西端に位する。低平なる島嶼で島上に高樹が繁茂して居る。

三二 シ ガ タ 島

五

數部落アリ

註一

タナーマサ島の西方に位する平坦な小島である。

一九三〇

約五〇〇(推定)

二五二〇

註一、本誌に據る。註二、同上地圖に據る。

三三 テ ロ ー 島

一一二

一九三〇

パツ諸島中人口最も多シ

註一

タナーマサ島の西方に位する小島で、此の島の周囲には尙數個の小島がある。本島には人口二萬以上のパツ諸島最大のプウロテロ市在り此の諸島中人口最も多し且最も重要な島である。

註一、本誌に據る。註二、同上地圖に據る。

三四 タ ナ ー マ サ 島

二八〇

一九三〇

約一、五〇〇(推定)

一〇一五

パツ諸島中の一大島で其の面積は我が伊豆大島より稍大きく諸島の中央に位して居る。高さ二〇四米の丘を除くの外顯著なる山頂なく、土地一般に低平で人口稀薄である。

註一、同上地圖に據る。

三五 タ ナ ー バ ラ 島

三五〇

一九三〇

東岸ノ數個所ニ住民アリ

註二

パツ諸島南端に位する一大島で其の面積は我が隱岐島の面積より稍大きい。島頂は北部に在り二七〇米の高度に達する。全島樹木蒼蒼と繁茂し、東岸に於ける數個所を除く外は住民はない。

註一、本誌に據る。註二、同上地圖に據る。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

三六 ビニ島

三〇〇

人口稀薄ナリ

註一

バツ諸島中最も北東方に位する島で、舟楫の便ある河流を有せず、草木密生して人口は甚だ稀薄である。本島の面積は我が  
暹羅島の面積より稍狭い。

註一、水路誌に據る。註二、同上地圖に據る。

三七 メンタウエイ諸島

五、二八〇

一九〇七

一一、〇〇〇

一一・二

群島は「シベルト」シボラ「北バカイ」南バカイの四大島並に小なる數箇の島から成る。群島は山丘に富み且火山質にし  
て時々地震があり西岸には絶えず激浪があつて上陸殆ど不可能である。稍大なる島のみ住民がある。本諸島の面積は我が南  
洋群島の面積に匹敵する。

註、世界地理外南洋に據る。

三八 シベルト島

三、五〇〇

一九三〇

約七、〇〇〇(推定)

五一・二

メンタウエイ諸島の最北端に位する大島で我が暹羅島の面積より稍狭い。土地概して低く沼澤地に富み濱際に至る迄樹木密  
茂し内陸には數座の低丘がある。沿岸地方は概ね低濕で住民の大多數は内陸に居住して居る。東岸は「マングローブ」樹で  
蔽はれ、西岸は殆ど砂濱であるが東岸のみ避泊地がある。

註、同上地圖に據る。

三九 シボラ島

五三〇

一九三〇

約一、一〇〇(推定)

五・二

註一  
註二

人口稠密ナラズ

シベルト島の南方に位する一大島で其の面積は我が淡路島の面積より稍狭い。三〇〇米内外の丘が島の中央部にあるが概し  
て土地は低平である。住民は頗良であるが全く未開である。

註一、水路誌に據る。註二、同上地圖に據る。

四〇 北バカイ島

五〇〇

——

少數ナリ

一九三〇

約一、〇〇〇(推定)

五・二

註一  
註二

バカイ諸島北部の島嶼で其の面積は我が淡路島の面積より稍狭い。本島は山丘に富み、最高點は高さ三七二米に達し、島の  
中央部は丘陵地となつて居る。海岸は西部北部の岩石海岸を除く外は一般に平坦で低濕である。住民は性質温和で文化に裕  
せず其の數も甚だ少い。

註一、水路誌に據る。註二、同上地圖に據る。

四一 南バカイ島

七五〇

——

少數ナリ

五一・二

バカイ諸島の南部、メンタウエイ諸島の最南端に位し略ぼ我が佐渡島に匹敵する面積を有する。本島は多丘の島で殊に北部  
は高原狀を爲す。住民は性質温和で文化に裕せず其の數も甚だ少い。

四二 エンガノ島

三五〇

一九三〇

約三、五〇〇(推定)

二五・二

メンタウエイ諸島の最南端に位する。島の北西部は平坦で、南東部は山丘に富み、島頂二八一米の山は島の中央部に位す  
る。島は密林に被はれ、道路なく殊に内陸は卑濕で跋涉困難を極め熱病が発生して居る。島民は北東沿岸に散在し、其他  
の地には住民はない。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

註、同上地圖に據る。

四三 マラッカ海峡諸島

六、〇五五

一九三〇

約三〇、〇〇〇(推定) 一〇一五

スマトラ島北東部海岸に接する「メダン」「ルバツ」「ベンカリス」「バタン」「メルバウ」「ランサン」「テピンテンギ」「メン  
ドル」の八大島を呼稱する。本諸島は低濕なる島々を以て構成され、海岸にはマングローフ樹密生し、内部は未開拓で密林  
を成し、人口極めて稀薄である。本諸島の面積は淡路島の約十倍である。

註、同上地圖に據る。

四四 メダン島

二八〇

一九三〇

一四部落アリ

約三〇〇(推定) 一一〇

マライ半島のマラッカ市の南東に位する。狭き水道を以てルバツ島に密接する。本島の大半は「マングローフ」樹の沼地であ  
るが、内部には高樹がある。但し本島の北東側には若干の砂濱存在し、處々に「カスアリナ」樹及小村落がある。

本島の面積は我が伊豆大島の面積より稍大きい。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

四五 ルバツ島

一、〇七五

一九三〇

約一〇部落アリ

約一、〇〇〇(推定) 一一〇

マライ半島のマラッカ市の南東に位し、我が佐渡島の一・二倍に達する面積を有し、狭き水道を以てメダン島に密接する。  
本島の大半は「マングローフ」樹の沼地であるが、内部には高樹がある。本島とスマトラ島との間にはタンジョンケダム  
(Tanjung Ketam) ケタム (Ketam) フトム (Along) ヤン (Payang) マン (Mampu) ランバン (Rampang) 及 デエ

ンティレ (Dyentileh) 等の小島がある。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

四六 ベンカリス島

九〇〇

一九三〇

四七部落アリ

約三、〇〇〇(推定) 五一

マラッカ海峡に位し、其の面積は我が佐渡島の面積より稍廣い。島上一帯に草木が密生し、海岸の砂地には小部落があり、  
鑛地となつて居る。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

四七 バダン島

一、一〇〇

一九三〇

約三〇部落アリ

約二、〇〇〇 五一

マラッカ海峡に位し、我が佐渡島の一・三倍に達する面積を有する。島上一帯に樹木密生し海岸はマングローフ樹の低濕地  
である。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

四八 メルバウ島

二〇〇

一九三〇

約一〇部落アリ

約五〇〇(推定) 五一

マラッカ海峡に位し、其の面積は我が伊豆大島より稍狭い。島上一帯に樹木密生し海岸はマングローフ樹の低濕地である。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

一六

四九 ランサン島

八〇〇

約一五部落アリ

註一

マラッカ海峡に位し、我が佐渡島の面積より稍狭い。島上一帯に樹木が密生し、海岸はマングローブ樹の低湿地となつて居る。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五〇 テピンテンギ島

一、四五〇

約二〇部落アリ

註一

マラッカ海峡に位する一大島で、我が佐渡島の一・五倍に達する面積を有する。島上一帯に樹木が密生し、海岸はマングローブ樹の低湿地となつて居る。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五一 メンドル島

二五〇

約一〇部落アリ

註一

マラッカ海峡に位し我が豊岐島の約二倍に達する面積を有する。島上一帯に樹木密生し、海岸はマングローブ樹の低湿地となつて居る。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五二 カアリムン及クンドル諸島

五四四

一九三〇

約五、〇〇〇(推定)

三五—一〇

昭南島の南西に在る約一〇箇の大島と約三〇箇の小島から成り、其の總面積は我が淡路島の面積より稍廣い。

本諸島はスマトラ東岸の低濕なマラッカ海峡諸島と著しく其の趣を異にして、山岳に富み、地味頗る肥沃にして住民が多い。島は何れも濠又は淺瀆を以て圍繞せられ、高き樹木は概ね伐採し盡くされて居る。島の内部では支那人が耕作に従事して居る。  
註、同上地圖に據る。

五三 小カリムン島

九

一部落アリ

註一

カリムン諸島の北端に位する。高峻な島で三七五米の高さを有する。山嶽直ちに海に迫り海岸に平地を見ない。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五四 大カリムン島

一一〇

約二〇部落アリ

註一

カリムン諸島の北部に位する諸島中の最大島で我が伊豆八丈島の一・三倍の面積を有する。此の島の北端は山嶽に富み、四〇〇米以上の二高峰が屹立する。南端は卑濕の沼地であるが一般に低地の開發が進んで居る。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五五 パリイト島

一四

二部落アリ

註一

大カリムン島の南方に位する。低平なる島嶼で北部の開發が進んで居る。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

スマトラ面積人口表

一七

スマトラ面積人口表

五六 トウラン島

七

三部落アリ

一八

一九三〇

約一五〇(推定)

三五—二〇

大カリマン島の南方に位する。地形一般に低平で西海岸は砂濱となつてゐる。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五七 ルムウト島

二

部落ナシ

パライト島とトウラン島との間に介在する小島である。

註、海圖に據る。

五八 ババン島

四四

一五部落アリ

一九三〇

約六〇〇(推定)

二五—一〇

カリマン諸島の略中央部に位する。本島の西部には約二〇〇米に達する二丘陵があるが一般に低平で開發が進んで居る。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

五九 ブルー島

一八

一四部落アリ

一九三〇

約四〇〇(推定)

三五—一〇

ババン島の東方に位する。ババン島と共に部落数多く、開發は進んで居る。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六〇 ベラアート島

四〇

一五部落アリ

一九三〇

約六〇〇(推定)

三五—二〇

カリマン諸島の南端に位する低平な島である。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六一 クンドル島

三〇〇

約四〇部落アリ

一九三〇

約四〇〇(推定)

三五—二〇

カリマン諸島の南端に接し我が隠岐島より稍狭い面積を有し、スマトラ島に直接に對して居る。東部は低平で部落は西海岸に多く内部の開發は進んで居る。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六二 リオウ諸島

一一、〇三—一

約五〇、〇〇〇(推定)

二五—一〇

リオウ州に屬する。シンガポール海峡を隔て、昭南島に對する關係上スマトラ島東方の他の諸島に比すると開發が進んで居る。リオウ州の首都タンジョンブラは此の諸島中のリオウ島に在る。支那人が島の内部に於て農耕に従事して居る。此の諸島の面積は我が南洋群島と略同等である。

註、同上地圖に據る。

六三 ハーラン島

一一三

一八部落アリ

一九三〇

約二、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の南端に位し我が伊豆八丈島の一・三倍の面積を有する。樹木密茂せる多丘の島で水道にて二分され、南部を特

スマトラ面積人口表

一九

にハラン・パアルウ島と稱する。本島の東部にはセンブル島 (Sembur) スト・ロレン島 (Batu Belobang) タンシマン・ダハン (Tanjung Dahan) コレク・ブスン島 (Korek Busung) コレク・ラバト島 (Korek Rapat) 等の小島がある。東海岸、西海岸に山脈縦走し、中央部は地溝状の低地をなし、其の海岸に部落がある。  
註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六四 カラス・ベサル島

四

九部落アリ

一九三〇

約一五〇(推定)

三五—二〇

註二

リオウ諸島とハラン島の中間に位する。有樹多丘の島で、千出礁全島を圍繞して居る。人口割合に稠密である。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六五 パンキル島

三

七部落アリ

一九三〇

約一〇〇(推定)

三五—二〇

註二

ハラン島とリオウ島との中間に位する。樹木繁茂せる多丘の島で、島の周圍は千出礁に圍繞されて居る。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六六 レンバン島

一二七

三七部落アリ

一九三〇

約三〇〇(推定)

三五—二〇

註二

リオウ諸島の西北端に位する一大島で我が澎湖島に匹敵する面積を有する。多丘の島嶼で特に西海岸は絶壁をなして居る。島内樹木多く開發は進んで居る。部落は海岸に散在して居る。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

六七 バタム島

三九〇

一九三〇

約八、〇〇〇(推定)

三五—二〇

昭南島の南方に位する一大島嶼で其の面積は我が隠岐島より稍廣い。土地の開發は支那人の流入によつて進み人口も多い。

註一、同上地圖に據る。

六八 プラン島

一〇〇

一九三〇

約二、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の西北端に在り、伊豆八丈島の一・二倍の面積を有する。多丘性の島嶼で海岸は珊瑚礁を有する。

註一、同上地圖に據る。

六九 チョンボル島

八〇

一九三〇

約一、五〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の西部に在り其の面積は伊豆八丈島の面積に匹敵する。多丘性の島で島頂八〇〇米を呈する。北部に一村舎がある。

註一、同上地圖に據る。

七〇 スギ島

九〇

——

三一部落アリ

一九三〇

約一、五〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の西部に位する一島嶼で、其の面積は伊豆八丈島の面積より稍廣く、殘丘上の丘陵が散在する。最高六三〇米の丘陵が縦走し、西海岸には珊瑚礁があり東海岸に部落が多い。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

スマトラ面積人口表

スマトラ面積人口表

七一 ツ リ ア ン 島

一二五

三部落アリ

註一

一九三〇

約二〇〇、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の西部に位する。島は大ツリアン、小ツリアンの二島より構成されてゐる。標高一〇〇〇米の高山があり平地に乏しい。

註一、海圖に據る。註二、同上地圖に據る。

七二 リ オ ウ 島

一、一〇〇

一九三〇

約二五、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の最大島で昭南島の南方に位し、我が佐渡島の一・二倍に達する面積を有する。北部に密林多く南部の開発が進んで居る。

註、同上地圖に據る。

七三 リ ン ガ 諸 島

一、七〇〇

一九三〇

約三〇、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リオウ諸島の南方に位し、「セベンカ」「リンガ」「シンケツブ」の三大島と屬島より成る。本諸島は赤道直下に在り、未だ廣く原始林散在し、海岸はマングロープの低湿地を爲し、リオウ諸島に比すれば其の開発は進んで居ない。本諸島の面積は我が琉球列島の過半を占めて居る。

註、同上地圖に據る。

七四 セ バ ン カ 島

一一〇

一九三〇

約二〇、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リンガ諸島の北部に位し我が澎湖島に匹敵する面積を有する。北西—南東の方向に狭長なる島形をなし島の南半は山地で被

はれ、中央部に五〇〇米の丘陵がある。

註、同上地圖に據る。

七五 リ ン ガ 島

八五〇

——

約四〇部落アリ

一九三〇

約一五、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リンガ諸島最大の島嶼で我が佐渡島に匹敵する面積を有する。本島には六〇〇—七〇〇米の殘丘が處々に散在する。本島の大部は密林で被はれ、リオウ諸島に比すれば開發は進んで居ない。

註、同上地圖に據る。

七六 シ ン ケ ツ プ 島

七〇〇

一九三〇

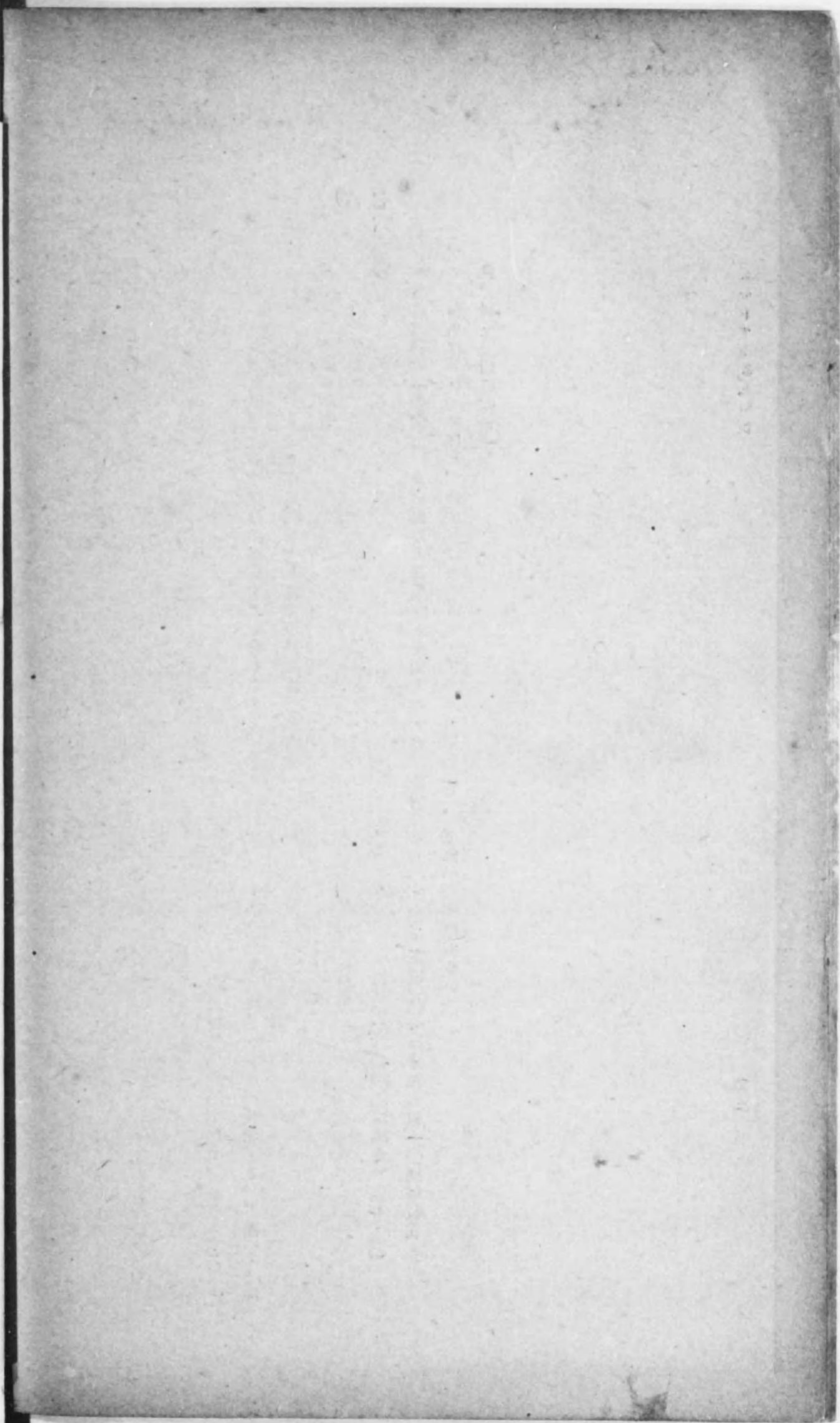
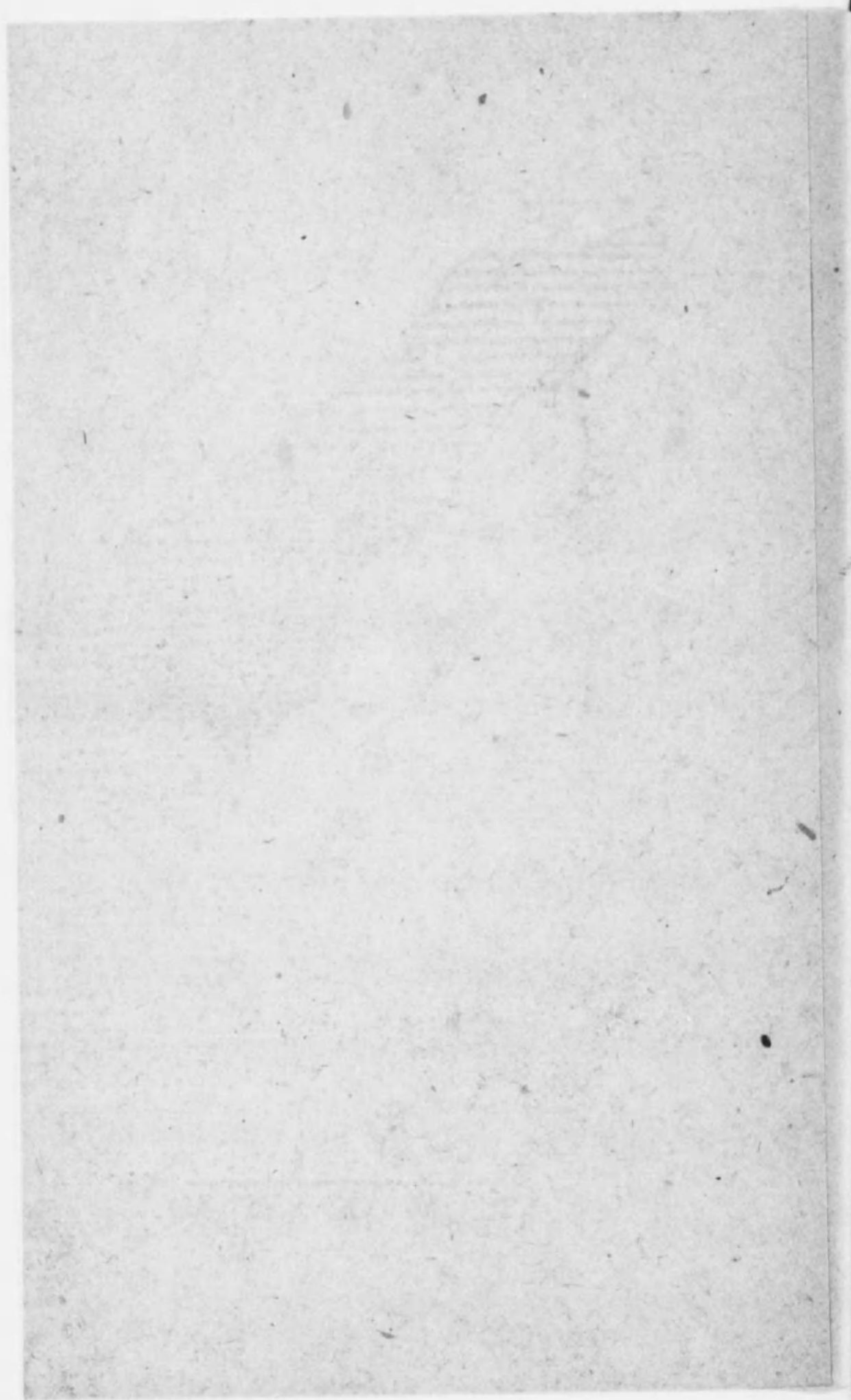
約一五、〇〇〇(推定)

三五—二〇

リンガ諸島南部の一島嶼で、我が對島に匹敵する面積を有する。島内には六〇〇米—一〇〇〇米の殘丘が約一〇個程散在して居る。島内は密林で被はれ、西海岸はマングロープの濕地帯をなし、東海岸に部落が多い。

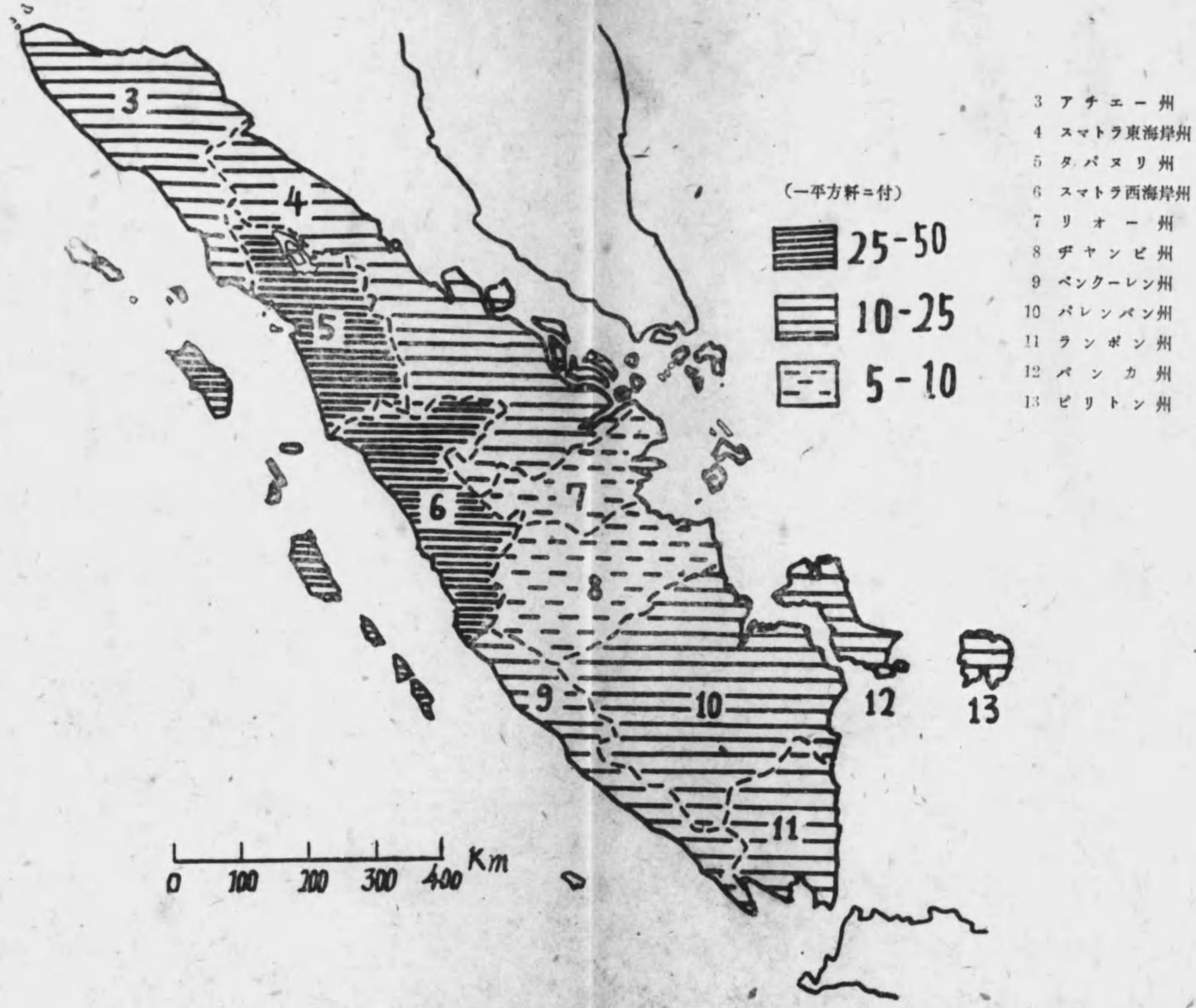
註、同上地圖に據る。





スマトラ州別人口密度図

南洋資料第229號附圖



443  
72

昭和十八年十月十日印刷  
昭和十八年十月十五日發行

頒價金 四十三錢  
特別行爲稅相當額二錢  
合計金 四十五錢

財團法人 南洋經濟研究所

代表者 小西干比古

編輯兼發行人 鮎澤二郎

長野縣岡谷市橋原

印刷所 鮎澤印刷所

會社名 鮎澤印刷所

東京都赤坂區表町四丁目一番地

發行所 財團南洋經濟研究所出版部

振替貯金口座東京一四五八二二番

終

